

平成 29 年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

開館 6 年目を迎え、地域に白根北児童館が周知されてきた今年度は、常連で来館されている母親の紹介で初来館される親子が多く見られました。昨年度から南区内はもとより西区、中央区、秋葉区からも多くの来館があることから、4 月に初めて来館した親子と常連の親子を繋ぐ「はじめましての会」を実施しました。自己紹介から始まり、職員が橋渡しとなって遊びながら子ども同士、母親同士が交流することを目的に行ったこのイベントは子どもたちにとっても保護者にとっても仲良くなれる良いきっかけになったようです。そこで仲良くなった親子が、その後も自然な形で声を掛けあい遊んでいる姿が見られたことから母親もママ友を求めて児童館を利用されているのだと知ることができました。また、昨年度から取り入れている「ママのためのハッピータイム」やオーエンジャー☆みなみ主催の「にゃんこの手」のように母親がリフレッシュできる企画を増やしたところ、多くの参加者がありました。このことから保護者どうしの交流、学び、支えあいの場として児童館が安心して集える場所になってきていることを感じます。乳幼児の利用時間帯は年齢によって、平日の午前中が 0~3 歳の未就園児、夕方は保育園幼稚園帰りの 3~6 歳児と異なり、それぞれの年齢にあった遊具や遊びを提供してきました。また、今年度は友達同士の親子以外はなるべく職員が入って関わることを意識してきました。そうした積み重ねから信頼関係が生まれ、子育て中の悩みを職員に打ち明けられる保護者もいました。

① いちごタイム

今年度も毎週火曜日の 10 時 30 分から概ね 20 分程、乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は主に入園前の幼児を主対象としていますが、夏休みや春休み中は保育園児や幼稚園児も参加しており、賑やかに楽しく行ってきました。いちごタイムは家庭から一步出て同年齢の子ども達とも楽しく交流してもらうことも目的としており、保育園入園前に集団生活に慣らす練習のために参加される親子もいました。職員はそうした親子が参加しやすいように雰囲気づくりを大切にしながら親子を繋ぐ橋渡しを行ってきました。参加組数は平均 4~5 組から 10 組程でした。内容は主にお返事遊びや季節に合った絵本の読み聞かせ、親子のふれあい遊び、体操、リトミック等を提供してきました。

② つくって遊ぼう・自由工作の日

毎月第 4 木曜日の 11 時から乳幼児が親子で楽しめる簡単な工作「つくって遊ぼう」を、第 2 土曜日の午前 10 時 30 分からは今年初めて取り入れ家族で楽しめる「自由工作の日」を幼児さん向けに提供してきました。参加される親子は 0~2 歳の未就園児が主なので、子どもたちはシールを貼る、絵を描く、手でちぎるなどしながら親子で工作を楽しんでいました。完成した作品を手に笑顔で持ち帰っていました。「つくってあそぼう」では毎回 8 組の定員を設け職員が内容を提供した「こいのぼり」「たなばた飾り」「おひなさま」等の季節に合わせた工作や、牛乳パックや紙皿などの廃材を使って親子で遊べる工作を提供してきました。出来上がった作品を親子で見せ合ったり、満足そうに職員にみせてくれる笑顔はとても可愛らしい様子でした。

③ 絵本読み聞かせ

毎月第1土曜日の午前11時から15分～20分間、全年齢を対象にした絵本読み聞かせを行ってきました。参加者は幼児から小中学生と幅広いため、事前に幼児向け、小学生向けの絵本を数冊ずつ用意し、当日の参加者をみて年齢に合った絵本読み聞かせを実施しました。絵本の好きな幼児さんは読み終わった後に「もう1回」とリクエストすることもあり、イベント後に母親の膝の上で同じ絵本を読んでもらっている場面も見られました。絵本は子どもの想像力と情操を育む上でとても良い材料であるため、様々なジャンルの絵本を1冊1冊丁寧に読み進めてきました。

④ パンダタイム ホット・ほっとタイム

毎月第3木曜日の午前中に子育て中の保護者を対象とした「ホット・ほっとタイム」を開催してきました。育児中の保護者にコーヒーや紅茶を飲みながらホッと一息つける時間を持ってもらうと同時に子育て中の悩みや喜びを共有してもらっています。母親がテーブルでゆっくりとお茶を飲んでいる間、子ども達は好きな玩具を持ち寄って自由に遊んでいます。更に、リラックスできるように季節の花を飾ったり、BGMを流し雰囲気づくりに努めてきました。今年度は、ホット・ほっとタイムの前に0～3歳児向けに絵本の読み聞かせである「パンダタイム」をタイアップさせて取り組んできました。母親の膝の上で落ち着いて絵本を観たあと、保護者に見守られながらゆったりと遊んでいました。

⑤ ママのためのハッピータイム（ママハピ）

子育て中の母親に少しでもHAPPYな時間をもってもらおうと昨年度から実施した「ママハピ」は今年度も母親の強いニーズで実施したイベントです。今年度は年3回実施し、5月は職員による「ダンスエクササイズ」、7月は外部講師による「足つぼマッサージ」12月には農園で採れたサツマイモのつるで作った「クリスマスリース作り」の計3回を実施しました。実施後のアンケートでも「とても良かった。また来年もやってほしい」という声が多く、来年度もニーズに答えて年間4回実施する予定です。実施時間は20～30分と短時間でしたが、自分だけの時間を持てたことでリフレッシュし、また新鮮な気持ちで子どもと向き合えるのではないかと思います。

⑥ ちびっこ運動会

今年は11月12日（日）に実施しました。子どもの成長に合わせたかけっこや、チャレンジゲーム等思いきり親子で身体を動かして秋の一日を楽しみました。参加者はほとんどが未就園児のため同じ月齢の子どもと交流する機会が少ないので、同年齢の子ども達が交流しながら競技に参加することは子どもたちにとって良い刺激となったようです。保護者も笑顔いっぱい我が子をビデオやカメラに楽しそうに納めていました。また、今年度もイベントを日曜日に開催することで、父親や祖父母と一緒に参加する子どももいました。今年は白根高校の男子生徒3名もボランティアとして参加し、緊張した面持ちながらも一生懸命に道具の出し入れなどしながら、幼児さんと交流する姿が見られました。

⑦ にゃんこの手（オーエンジャー☆みなみ）

子育てオーエンジャー☆みなみは子育て中の母親に研修を受けたボランティアがお茶やハンドトリートメントなどを提供しながら育児中の母親の悩みをサポートするボランティア団体です。白根北児童館が位置する北部では「にゃんこの手」と命名し、昨年度から

児童館でも活動を始めました。家に閉じこもりがちな親子から気軽に参加してもらい、オーエンジャーや参加者同士で子育ての悩みや相談を聴くことを目的に実施しました。内容はお茶やお菓子を出しながら、ハンドトリートメントやUVレジン、音楽遊び等を提供しました。多い時は20組の参加者があり、広い遊戯室が手狭になるほど活気で溢れていました。参加した母親は気楽にオーエンジャーや職員に話しかけたり、母親同士もお茶を飲みながら楽しく交流している場面が見られました。参加した母親から高いニーズがあったことから、来年度も引き続き、活動の輪を広げていきたいと考えています。

⑧ 移動児童館

乳幼児の移動児童館では9月と11月に大通保育園、11月と2月に大鷲保育園の2つの保育園を回りました。上半期に園外保育で児童館に遊びに来館された園もありました。内容は主にカプラとリトミックを提供しました。カプラは2000～4000ピースを持参し、基本の「ねる・おきる・たつ」の置き方から年齢に合わせたプログラムを30～40分間実施しました。リトミックも年齢によってプログラムを変えて行いました。音楽を使って楽しく体を動かしながらリズム遊びを児童館のリトミック有資格者が提供しました。各保育園児と児童館職員が交流することで、より児童館を身近に感じてもらいながら、気軽に来館してもらうことを目的に行ってきました。

⑨ 季節行事

定例の乳幼児イベントの他に季節に合ったイベントも多く実施しました。春はじゃがいもやさつまいもの苗植え体験、7月七夕会、10月ハロウィン、12月クリスマス会、2月豆まき会、3月ひなまつりとそれぞれの季節を感じながら月齢の低い乳幼児が無理なく参加できる内容を提供してきました。どのイベントもキャンセル待ちが出るほど人気で親子で楽しんで頂けたようです。特にハロウィンではクリスマス会を凌ぐ人気で17組37名の親子が参加し、子どもたちも仮装しながらハロウィンの雰囲気を楽しんでいました。今後も昔からの伝統行事を取り入れながら楽しい企画を提供していきたいと思えます。

⑩ パパとあそぼう

年間を通して乳幼児の保護者は母親の来館が多いのですが、白根北児童館では週末になるとよく父親が我が子を持って来館されることが多いのが特徴です。昨年度に続き2回目の「パパと遊ぼう」は6月の父の日に向けて実施しました。育児に関心があり、母親に協力したい父親は多いのですが、あまり積極的にイベントに参加される父親がこれまでは少ないようでした。そこで外部から子育て中の男性講師を招き、絵本の読み聞かせやふれあい遊びなどを実施しました。元々、育児に協力的な父親と幼児が10組程集まり、講師から父親ならではのダイナミックな遊びを教わったり、子育ての悩みなど話し合いました。母親とは違った視点から子どもに愛情を注ぐ体験談なども聞かれました。実施後のアンケートでは「来年もあればまた参加したい」と意欲的な父親もおり、好評でした。

⑪ 縁日ごっこ

今年度、初めて取り入れた縁日ごっこでは25組72名の親子が参加しました。地域のボランティアさんからお手伝いを頂き、紙芝居や出店など縁日の雰囲気を味わいました。9

月の日曜日に開催したこともあり、多くの親子連れが参加してくれました。幼児イベントでは一番参加人数の多かったイベントとなったので来期も更に子ども達に喜んでもらえる内容を提供していきたいと思います。

(2) 来期の目標・課題

今年度は近隣の地域だけでなく区外からも多くの来館がありました。また最近では祖父母が孫を連れて来館してくれることも多くなってきました。一方で地元でまだ児童館が乳幼児も利用できることを知らない方が多く、引き続きお便りや移動児童館などでPRに力を入れていきたいと思っています。特に出産後、間もない母親に子育て支援講座やベビーマッサージなどを通して児童館が0歳から利用できる場所だということを知ってもらえたらと思います。これまでも子育て支援講座に参加した母親がママ友を連れて来館したり、子育て中の情報交換を行ってきたことから更に南区以外にも情報を発信していきたいと考えています。また、来期はこれまで幼児向けの絵本読み聞かせをパンダタイムとして行ってきましたが、お便りやホームページで見ると内容がわかりづらいということで幼児絵本タイムに名前を変更して実施したいと考えています。更にこれまで実施してきたようにイベントのアンケートを元に、子育て中の保護者のニーズに合った内容を提供していけたらと思います。

① 保育園・幼稚園向けのイベント開催

今年度の乳幼児の来館状況の中で保育園児や幼稚園児は平日の夕方の利用が多く、週末には家族連れで来館する子どもがほとんどでした。そのため、運動会や人形劇は日曜日に開催してきました。来期も引き続き、イベントを日曜日に開催することで保育園や幼稚園児も多く参加できるよう考えていきたいと思っています。また、園外保育も積極的に受け入れたいと思います。保育園で遊びに来たことがきっかけで、週末に家族で来館された親子もあるように、児童館が幼児にも気軽に利用できることをPRしていきたいと思っています。

2. 小学生事業

(1) 総括

小学生の平日の利用は低学年が多く、高学年は部活動や下校が遅く、なかなか来館できませんでした。また、今年度は1月から2月にかけて大雪やインフルエンザの流行で小学生の来館が落ち込みましたが、夏休みや冬休みの長期休みは毎日のように来館してくれる小学生もいましたので年間の小学生利用の平均は45~50人となりました。児童館も6年目を迎え、子どもたちの生活の中に児童館がしっかりと根付いてきているのを感じています。また、今年度は小学生向けに新しく音楽を楽しみながら遊ぶ「おとようび」「自由工作の日」も取り入れました。普段の小学生の遊びは主に体を動かすバドミントンやバレーボール、サッカー、バスケットボールですが今年度は低学年の利用が多かったこともあり、ブロックや人形遊びなど3~4人のグループで静かに遊ぶ子ども達も多く見られました。特に1年生は普段から職員が関わり、遊びの指導の他に生活面でも助言する場面が度々見られました。

① 毎月のメイン行事

『ドッジボール大会』、『バドミントン大会』等のスポーツ大会、『ハロウィンを楽しもう』、『クリスマス会』、『七夕会』、『豆まき会』、『ひなまつり会』等季節のイベント、『夏まつり』や『ふゆ祭』、『進級お楽しみ会』等のお祭りイベントを児童館の目玉行事として、毎月1回開催して

きました。また、今年度は昨年度に続き、子どもたちの好きな遊びを集めた「わくわくスペシャル」やA4サイズの用紙に自由にイラストを描いた「イラスト大会」も子ども達に人気でした。子どもたちのニーズに合ったイベントを提供できたと思います。そして子どもたちからイベントを企画し作り上げる楽しさも味わってもらいたいと考え、イベントのお手伝いもたくさん行ってもらいました。子どもたちにイベントの企画準備から関わってもらうことで、達成感や成功体験を重ねていってほしいと願っています。

② わくわくタイム

毎週月曜日の16時30分から30分間、小学生対象に遊戯室でドッジボールや鬼ごっこなど主に体を動かす遊びやレクリエーションを行いました。また、防災を意識した防災ゲームも取り入れました。今年度は小学生の退館時間が午後5時になる10月から3月までは15分繰り上げて実施したところ、前年度より参加人数が増えています。また次回の内容をポスターで告知しているので子どもたちは毎週、楽しみにしています。1年生から6年生までの異年齢と一緒に遊べる「わくわくタイム」では、高学年は低学年に優しいボールを投げるなど思いやりの気持ちを持って接し、低学年は集団遊びの楽しさや友達と遊ぶ楽しさを学びます。また今年度も「わくわくタイム」で特に人気のあったドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを子ども達が投票した「わくわくスペシャル」を2回実施し、好評でした。

③ つくってあそぼう

工作イベントとして、毎月第4土曜日の午後2時から3時に『つくって遊ぼう』を開催しました。工作では、身近な素材を使った工作遊びを通じて、物を作る楽しさ、作ったもので工夫しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ることを目的としています。材料は牛乳パックや紙皿などほとんどが廃材や身近な材料で行いました。今年度は『手作りパズル』や、『ブーメラン』『クリスマスカードづくり』等男女共に楽しめる内容を提供してきました。各回定員8名の予約制で実施していますが、特に人気だった工作についてはキャンセル待ちが出るほどでした。今後も子ども達のニーズにあった工作を提供していきたいと思います。

④ 移動児童館

移動児童館は児童館を知ってもらうこと、様々な遊びを通して心身共に豊かに成長していく環境づくりのお手伝いを図ることを目的としています。今年度は南区の大鷲地区に出向き、大鷲っこクラブの小学生34名に普段児童館でおこなっている遊びを、大鷲小学校の文化祭ではスライムづくりを提供しました。今年度は特に大鷲地区と交流させて頂いたことから、来年度は大鷲小学校で年4回ほど移動児童館に行かせて頂く予定となっています。校長先生からの提案で国語の授業枠に取り入れて頂き、絵本の読み聞かせやカプラで定期的に出向く予定となっています。移動児童館を通し、より大鷲地区の子ども達からもたくさん来館してほしいと願っています。

(2) 来期の課題・目標

児童館が開館し6年目を迎え、子どもたちや地域に周知されてきました。これまでは子ども達に児童館を知ってもらうために多くのイベントを実施してきました。しかし、小学1~6年生全員が満足する内容を提供することは難しいものもありました。イベントに参加することを楽しみにしている子どもも多い一方、児童館で自分たちの好きな遊びをしたいと思っている子どもたちも多くなってきていることから、来年度はイベントの種類を減らしたり、定例のイベントに組み込んでいく方向にしたいと考えています。職員一人一人がより多くの子どもたちと密に関わってい

き、さらに親しみやすい児童館を目指していきたいと思っています。そのためには、日々子ども達の声に耳を傾け、自分たちの意見が言える場も作っていかねばと考えています。

また、10月から3月までは子ども達の下校時間が遅く、児童館もお迎えがない子ども達は午後5時退館の冬時間になるため、小学生の来館者数が伸び悩む時期になります。そのため大きなイベントを週末にしたり、引き続き「わくわくタイム」の時間を繰り上げるなど工夫する必要があると考えています。

3. 中学生・高校生事業

(1) 総括

中高生の年間利用時期は暖かい時期が多く、部活動帰りや週末にグループ毎で来館し3コートでバスケットを楽しむ子どもが多く見られました。特に中学生は部活動の繋がりや1~3年生の異学年の子ども達が一緒に遊ぶ姿も多く見られました。また、今年は中高生のボランティアも多く、幼児の運動会に白根高校の男子生徒3名や小学生のハロウィン会3名に中学生女子が自主的に手伝いを名乗り出てくれたりと昨年度よりボランティアの参加人数が増えています。中高生男子の遊びはバスケットボールやバトミントン、卓球など体を動かす遊びがほとんどでしたが、中高生女子は館内で職員や友達とゆったりおしゃべりを楽しんでいることも多く、児童館がいつでも気軽に立ち寄れる『居場所』になってきていることを感じます。

また、今年度は昨年度好評だった夕涼み会やハロウィンを夕方中高生向けに実施しました。自分たちだけの時間でイベントができたこと特に中学生女子に好評でした。中高生はほとんどの子ども達が部活動などのグループで来館することが多いのですが、稀に一人で来館する子どももおり、静かに漫画本等を読んで過ごしていますが、職員が何気なく話しかけると少しずつ学校や家庭の悩みを話してくれる子どももいます。そうした子ども達にも今後も寄り添いながら居場所を作っていきたいと考えています。

(2) 来期の課題

① 中学生・高校生イベントの発展

今年度、中高生の夕涼み会やハロウィン会を企画し、好評だったことから来期も中高生の声を聞きながらニーズに合ったイベントを企画していきたいと思っています。また今年度のように子ども達から自主的にボランティアに参加できるように職員一人一人が子ども達と密に関わりながら信頼関係を築くことを目標にしたいと考えています。中高生のイベント参加数は少ないのですが、自分たちだけの時間、イベントを持てる喜びがあるようなので今後も設けていきたいと思っています。

そして来期も中学生の職場体験を実施し、より児童館を知ってもらいたいと考えています。児童館は乳幼児から中高生までが利用できることから、中学生と幼児が交流できる絶好の場所なので是非活用してほしいと願っています。そして、そこから夏まつりなどのイベントボランティアに繋ぐことができると考えています。また中高生と関わりながらそれぞれの感性を引き出したイベントも実現できたらと思います。そして中学校への移動児童館など児童館PRの仕方も考えていかねばいけないと思います。

② 職場体験・ボランティア実習の受け入れ

今年度も中学校のコーディネーターさんから中学2年生の職場体験の依頼がありました。昨年度も、幼児さんとの交流が中学生にとって良い体験になったと中学校から好評を頂きましたの

で今年度も引き続き依頼があり、7月に実施しました。中学2年生女子3名が参加し、おまつりの準備や幼児イベントの補助を行っていただきました。幼児と関わっている表情はいつも来館時に見せる無邪気な顔とは違い真剣な表情で取り組んでいました。さらに児童館の流れや児童館職員の仕事を知ってもらう良いきっかけとなりました。参加した乳幼児の保護者も微笑ましい様子で見守っており、今後も引き続き中学生の職場体験を受け入れていきたいと思ひます。